むがしあったでおんな。

じっちゃとばっぱといたけでおんな。じっちゃ山さ行くどて、ばっぱに大きなにぎりまんまにぎってもらったけでおんな。そしてこんだ、庭のしまこさ行って、にぎりまんま背負うどてしたば、庭のしまこにあった大きなねずみ穴さ、ごろごろとそのにぎりまんまころんでいってしまったけど。たいへんだと思って、ほって行ったども、遠くさころんでいってしまったけど。穴さおりで、ずうっとたねで行ったば、増田とか十文字みたいなどこさ、行ったもんだしけど。そごさ、地蔵さま立ってらったんだとよ。その地蔵さまさ、聞いたんだとよ。

「えまこっちさ、にぎりまんまころんでこねがったかい、地蔵さま」

って言ったば、

「ころんできたけ、ころんできたけ。俺しまってあるじゃ」

って言うんだとよ。そして地蔵さま、出してよごしたんだど。そしたどこでじっちゃ、灰のついたところは、わ食うどてとって、灰のつかねえ、んめえどこばり、地蔵さまさやったもんだど。食ってけれってな。そしたば、

「じっちゃ、じっちゃ、ばげしゃな、うんといいごとあるんてが、泊まってえれ」

と、こう言うんだど。それでしゃ、なにええごとだべなって聞いだば、

「ばげしゃな、赤鬼たちばくちうつにくるんてが、その時しゃ二階さ上がって、ええあんばいになった時に、とりこのまねひ」

どて、地蔵さまに教えられだどよ。それでこんだ地蔵さま、

「俺のひざさあがれ」

ったば、

「あまりもったえねしてあがれねェ」

ってしたばよ、

「そんなごとねェがらあがれ」

って言われで上がったば、

「肩さあがれ」

って言うど。

「肩さだのあがられねェ」

どて言うのをあげて、こんだ頭さあがれどてあげて、こんだ二階さあがってかぐれでいたんだど。こんだ、暗ぐなったばよ、赤鬼や黒鬼ど、たくさん集まってきて、地蔵さまの前でばくちうつしたもんだとよ。夜中の十二時すぎだば、

「コケコノヨオー」

って叫んだとよ。

「あや、一番どりうだったや」

と、鬼ど言うんだど。それからまた少しおいでから、

「コケコノヨオー」

って叫んぞば、

「あッ、こんだ二番どりうだった」

それからまだしばらくたってから、

「バタバタバタ、コケコノヨオー」

ったば、

「それ三番どりうだったあ。夜が明げる、早くえぐべェ」

どて、そごさぜんこから何からみんな置いで、鬼こどみんな行ってしまったのだでおの。そしたどこで、池蔵さまが、
「じっちゃ、じっちゃ、まずおりでこい。そのぜんこみんなじっちゃさけるんてが、カマスさひで背負ってえげ」
って、こう言うんだど。
「したらもらってえぐが」
って、カマスさそのぜんこみんなさらって、いっぱいひで、地蔵さまさ礼言って、やんさやんさど家さもどってきたけど。家でまだ、じっちゃえねどて、ばんばまだ、どこさ行ったもんだべがあと、たねでえだもんだけど。したば、カマスさぜんこいっぱい背負って、
「こらばんば、地蔵さまからこらえにもらってきたじゃ」
どて、おろして見せだんだとよ。
「こりゃ、たまげだな。まんず、まんず」
ど、ばっぱたまげてな。こんだ、きれた着物などみんななげて新しいえ着物買って、おふるまいさねばならねどて、町さ行ったど。そして、魚から酒から買って、やんさやんさと背負ってきたっけど。それ料理してこんだ、じっちゃとばっぱと二人しておふるまいしてだんだど。そしたどこさ、隣のほいどばんば、
「なにしてらばア」
って、入ってきたんだど。しだばしゃ、おふるまい見て、たまげたんだど。それで、
「なんしてこんなにカネ儲けだば」
って聞くもんだでおんのや。それでこんだ、じっちゃ聞かせだんだど。
「俺しゃ、山に行ぐどて、ばっぱににぎりまんまにぎってもらったば、それしゃねずみ穴さ落どして、それほっていって、地蔵さまからもらってきたじゃ」
って、知らせだど。したば、
「これだば、俺のじっちゃどこもやる」
どって、隣のばっぱこんだ、大っきたにぎりまんまにぎって、隣の家でこうして金持になったから、じっちゃも行ってもらってこいどて、やだというのきかねで、しゃにむにやったんだとよ。そしたば、わらわらどにぎりまんまころばしてやってよ、そしてこんだ、広くて明るいところさ行ったば、地蔵さま立ってであったんだど。それでしゃ、
「地蔵さま、地蔵さま、にぎりまんまころんでこねがったが」
ったば、
「きたけ、きたけ。昨日も来たっきゃ、まだ来たな」
って言ったけど。そしてこんだ、二階さあがってえだば、鬼たちきたもんだけどしゃ。そしてばくちはじまったども、あまりにも早く、コケコノヨオーやったもんだど。
「なんだこりゃ、夕べだば、時つくったども、これだばあまりにも早くて、とりこだものだが、んでねんぜが、夕べのぜんこもみんなとられでしまった」
どて、鬼たちガリガリと二階さあがって、じっちゃどこ落どして、顔のあだりからかっちゃいだど。
「なんとがしてごめんしてけれ。なんにもぜんこえらねがら、ごめんしてけれ」

どて、手すりこっぺしたんだど。したば、地蔵さまな、
「お前ど、お前ど、そうだっきゃせめるものでねんだ。逃がしてやれ」
と言ったば、じっちゃまだなんにももらわねでよ、ねずみ穴もどってよ、家さ来たんだど。ばっぱまだ、俺のじっちゃ、ぜんこ背負ってくるべどて待ってらども、でらっと顔のあだりかっちゃかれで、泣いで帰ってきたど。